

令和2年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和2年 4月17日（金曜日）

開 会 午前10時04分

閉 会 午後 0時14分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 商業観光計画の進捗状況と今後について

○出席委員（7名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	久保一美君	委員	長谷川かおり君
委員	貳又聖規君		

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

経済振興課長	富川英孝君
経済振興課参事	白杵誠君
経済振興課主幹	太田誠君
経済振興課主幹	鵜澤友寿君

○職務のため出席した事務局職員

主 査	小野寺修男君
書 記	村上さやか君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより産業厚生常任委員会の所管事務調査を開会いたします。
(午前10時04分)

○委員長（広地紀彰君） 本日は担当課の説明を受けた後、委員から今回の新型コロナウイルスに関する経済対策等々について問題提起をしたいという旨の申し出がありまして、正副委員長で協議の結果、そのような時機を得た提案と捉えて、意見聴取の場を設けようということになりました。本日はそのような形で所管事務調査と、その他として新型コロナウイルスの経済対策等々について問題提起を受けたいと思います。本日はそのような進め方でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 異議なしと認めます。

それでは、早速ですが所管事務調査を行います。

年度初めのお忙しい中、経済振興課の皆様には所管事務調査にご協力をいただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

当委員会では、本年度の年間テーマを総合産業の充実と労働環境整備についてとして所管事務調査を進めているところです。今回は商業観光計画の進捗状況と今後について協議を進めてまいりたいと思います。まず、本日は平成28年度から4年間取り組まれてきた商業観光振興計画の進捗状況の成果について担当課より説明をいただき、その後、質疑等を行ってまいります。経済振興課より富川経済振興課長、臼杵経済振興課参事、太田経済振興課主幹、鶴澤経済振興課主幹がお見えになっております。それでは、担当課より説明をお願いいたします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 本日は白老町商業観光振興計画についてということで、お手元に資料を配付させていただきました。資料の作成につきましては、基本的には計画の概要に沿って、それから各基本方針、基本施策、リーディングプロジェクト、それぞれの取組項目を検証といいますが、羅列する形でどのような事業をしてきたという振り返りの部分を中心に今回資料は作成させていただきました。今回の所管事務調査においては次の機会もいただけるということになっておりますので、現状の報告をさせていただいた中で今後の取扱い、あるいは検証の部分については改めて次回の調査の中でご説明させていただく流れで進めさせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

お配りしております資料の1ページをお開きください。I、白老町商業・観光振興計画についてということでございます。

1、計画策定の目的ということで、白老町は、民族共生象徴空間ウポポイが今年開設するということに向けて2016年から地域の活性化を目指して、様々な取組を進めてきました。当該計画については、産業振興に係る課題を明確にするとともに、将来ビジョンと基本方針、さらにはリーディングプロジェクトを定めて、本町の商業・観光振興策を総合的かつ戦略的に推進するために策定され

たものでございます。

2、計画の位置づけにつきましては、総合計画、それから白老町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の上位計画、関連性を持って策定しております。

3、計画期間につきましては、平成28年度から平成31年度の4か年になっています。

4、計画の構成につきましては、大きく5章に分けて構成されています。第1章が計画の策定に当たって、第2章が地域の概況について、第3章は将来ビジョン・基本方針、そして第4章リーディングプロジェクトで重点的に取り組む項目を明確にして取組を進めるとしてしております。第5章においては推進体制、財源等についてを明確にし、実効性を担保するという内容になっております。

5、進捗状況と成果の考え方ということでございます。冒頭でもお話させていただきました、基本的には民族共生象徴空間ウポイを核にして、町内の商業観光の振興を図るための受入れ体制を目指してきたところでありますが、資料の作成に当たっては基本方針と基本施策の進捗状況、その成果を示すとともに、重点事業として掲載されたリーディングプロジェクトについては、その進捗状況だけではなく、目標値を設定されておりますので、その達成状況についてもお示ししております。なお、目標値については原則として平成30年度の実績で掲載させていただいているところであります。

次のページをお開きいただきまして、計画の構成につきまして、2ページに記載させていただいております。体系については、このようになっておりますのでご確認をお願いしたいと思います。

続いて3ページ、II、将来ビジョンについてでございます。この計画を通しまして将来ビジョンといたしましては、個性あふれる感動とおもてなしのまちづくりを目指して地域経済の活性化とまちの発展を目指すということにしております。

III、進捗状況と成果につきましては、担当の太田主幹から説明をさせていただきます。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） それでは、1、基本方針と基本施策について、私から説明をさせていただきます。基本的に6つの基本方針です。（1）、観光資源のネットワーク化、（2）、観光資源の魅力づくり、（3）、集客・誘客活動の強化、（4）、魅力的な地場産品等の造成、（5）、まちの顔となる市街地の形成、（6）、推進体制の確立ということで、8ページからのリーディングプロジェクトのところと重なる部分が多々あるものですから、その部分のときに実施内容等を併せて詳しく説明したいと思いますので、ここの部分はそちらのほうを参考といただければと思います。

4ページ目です。2、進捗状況と成果についてということで、観光資源のネットワーク化や、ここの4と5も8ページからのリーディングプロジェクトの部分とここも重なる部分があるため、ここで詳しく説明していきますので、ここは後ほど御覧いただければと思っております。

6ページ目でございます。IV、進捗状況、リーディングプロジェクト（重点事業）の現在の進捗状況ということで、表1を御覧ください。リーディングプロジェクトは、8つの項目です。①、白老顔づくりプロジェクトから⑧、集客交流拠点整備プロジェクトということで、取組項目数として、これも後ほど詳しく説明しますが、56項目から成り立っていて、進捗状況としては実施が49項目、着手が3項目、未実施が4項目となっております。特に、⑦、地域活性化推進体制及び人材育成プ

プロジェクトは、達成割合が66.7%にとどまっております。この部分に関しては要因等を分析し、継続的な取組が必要であると考えております。令和2年2月7日に白老まちづくりDMO戦略協議会が設立されましたので、ここが中心となって地域活性化の部分や、白老町観光施策を再考していくという役割を担っておりますので、今後は中心となって達成率を増やしていければと思っております。

2、目標値の達成状況です。本計画には、リーディングプロジェクトごとに目標値を設定し、その成果、効果を測る指標としております。このうち6項目は、令和2年度の目標値を設定していることから、現時点で測定できる項目は8項目となっております。表2を御覧ください。①、新規起業件数としては、目標値は10件中、実績として10件、就業者数としては、目標値2,000人に対して、実績として1,283人、②、観光入込客数が目標値300万人に対して151万人であり、この151万人というのは、皆さんももちろんご存知のとおり、旧アイヌ民族博物館が30年3月をもって休館したことが数字に表れているところでございます。外国人来訪者数が20万人に対して1万1,000人、ここの部分も旧アイヌ民族博物館の影響が大きいだろうと捉えております。教育旅行者数も同じでございます。おもてなしガイドの育成では目標値30人に対して12人となっております。③、遊休宿泊施設の再開1件に対して、実績として2件、新規宿泊施設の開業では、1件の目標値に対して1件の実績、④、広域観光情報発信では、10か所を目標にしているのですが、今のところ実績としてはありません。ただ、レンタサイクルの協議会が立ち上がりましたので、ポートとして6か所、観光協会ですとか、陣屋資料館、ユースホステルのハク(haku)さんや、虎杖浜でいえば虎杖浜温泉ホテル、海の別邸ふる川さんとホテルいずみさんに置いています。そこにレンタサイクルを置くことによって、情報発信機能も観光案内もしていただくような流れになっていますので、また観光インフォメーションセンターでも昨年の11月30日に竣工していますので、観光インフォメーションセンターも新たな観光情報発信拠点という部分と、白老駅にも無人ではありますが観光案内ブースも設置しております。拠点となるかどうかは分かりませんが、整備はしているというところでございます。⑤、仙台藩元陣屋跡は、資料館の来場者数が3万人に対して3万4,000人ということで増えているということでございます。⑥、地場産品を扱う店舗の新規開業数10件に対して、ここは令和2年度の実績になっていますので、空白とさせていただいております。ふるさと納税額が2億円の目標に対して、約4億2,000万円となっております。⑦、まちづくり会社による雇用創出ということで、昨年の令和元年8月7日に白老観光協会がDMOの候補法人として登録されましたので、早急に本登録に向けて、いろいろな役場の支援や人材の支援も検討を視野に入れながら、早急にDMO本登録をしていきたいと思っております。⑧、年間施設利用者数も、令和2年度の目標値になっていますので、空白とさせていただいております。

8ページ目をお開きください。3、各リーディングプロジェクト(重点事項)の状況ということで、詳しく項目に沿って説明していきたいと思っております。

(1)、白老顔づくりプロジェクト、①、個性的で魅力ある街並みの形成ということで、取組内容が3つでございます。統一感ある街並み、景観形成の推進ということで、進捗状況としては丸印とさせていただきます。実施内容としては、景観ガイドラインの作成ということで、白老駅北観光

商業ゾーンの景観ルールの策定を平成30年12月19日にしております。また、統一デザインのフラッグの設置ということで、ルイカが以前設置されていたのですが、老朽化しているということで、令和元年度のアイヌ政策推進交付金を活用して、もう皆さんも御覧のことと思うのですが、トゥレットポンのフラッグを新たに設置しております。

続きまして、街なか回遊空間の整備ということで、ここも進捗状況丸とさせていただきます。観光インフォメーションセンターの周辺遊歩道整備と、東町地区の歩道の整備をしております。3つ目の空き店舗、老朽施設等の修景整備は、空き店舗等の活用・創業支援事業の実施ということで18件があります。年度別にいくと、平成27年が1件、平成28年が7件、平成29年が2件、平成30年が3件、令和元年が5件、合計18件となっております。業種別にいきますと、飲食業が8件、宿泊業が4件、小売業が3件、店舗改修が3件となっております。

続きまして、②、来訪者の魅力づくり・賑わい創出ということで、7項目でございます。空き地・空き店舗等の利活用及び創業の推進については、前段で説明しましたので割愛させていただきます。町民が集う交流の場の創出（コミュニティビジネス等の促進）ということで、こちらは進捗状況を丸印としまして、観光インフォメーションセンター交流広場の整備ということで、芝生スペースで様々なイベントを実施するとしております。令和2年度には遊具等も設置する予定でございます。観光インフォメーションセンター内にもコミュニティルームが設けられていますので、町内会や、少数の団体でも会議ができるような形になっております。地域の特性、資源を生かした各個店の魅力づくりは、記載のとおりとなっております。アイヌ文化等の体験・交流機能の充実として、進捗状況を丸印にさせていただきます。アイヌ刺しゅう編み方講習会、巨大パッチワークの製作等ということで、巨大パッチワークについては海外も交流の輪が拡大されております。アイヌ刺しゅう編み方講習に関しても、昨年でいきますと刺しゅうで42名の参加、編み方で20名の参加であり、確実にアイヌの文化の理解が深まっているのだろうと思っております。後継者（担い手）の育成、確保（U・I・Jターン、町外からの創業者等の受入れ）では、ここの部分もU・Iターンフェア参加支援や、地域おこし協力隊等担い手育成等を行っております。中小企業等に対する低利融資制度の創設（新規創業、事業拡大、異業種参入等の促進）では、中小企業経営安定化支援事業創設を54件行っているところでございます。最後の象徴空間開設と連動した活性化イベントの開催では、各イベントを冠事業とつけて実施し、500日前、100日前のカウントダウンイベント、イランカラブテ音楽祭などを行っております。

続きまして、9ページでございます。（2）、誘客促進強化プロジェクト、①、観光情報の発信・案内機能の強化についてです。1つ目として、インバウンド（外国人観光客等）に向けた情報発信の充実、SNS、旅行ブロガーの活用等として、観光協会のホームページ上で多言語化を行っております。また、様々な場面で海外プロモーションを実施しております。また、昨年はこちらに記載のとおり、海外に人気のブロガーを活用したPRも実施しております。2つ目として、観光案内機能の強化（多言語、バリアフリー対応、案内サイン、Wi-Fi整備等）として、観光インフォメーションセンター内に対応型の通訳機や、Wi-Fiの環境を整備しております。3つ目として、観光ガイド、コンシェルジュの育成ということで、地域おこし協力隊等の採用、育成を行っており

ます。自然ガイドとして主にポロトのフィールドに活躍している協力隊もおりますし、観光コンシエルジュとしても協力隊で中国出身の協力隊を採用し、多言語化などを図っております。

続きまして、②、観光誘客・プロモーション活動の強化ということで、ここは1つ目、2つ目、4つ目ということで、実施内容が重なる部分がありますので説明いたします。登別洞爺広域観光圏協議会などの広域の部分は、全て昨年ぐらいからウポポイを絡めた誘客を中心に広域に教育旅行の活動や、ウポポイのPRをしております。3つ目の視察・研修等の積極的な受入れ（ビジネス化）では、残念ながら未実施となっております。ただ、広地委員、久保委員、長谷川委員と群馬県の川場田園プラザに私も含めて視察として行かせていただきました。そこでは3,000円の視察料で、1,000円の商品券を配り、その道の駅で買ってもらうという仕組みでした。今後はそのような仕組みの構築も考えられるのかと思っております。

続きまして、③、観光地としての魅力づくり・受入体制の強化でございます。様々な観光資源（グルメ・特産品・自然・温泉・文化・体験活動等）を組み合わせた着地型観光ツアーの造成ということで、各着地型観光プログラムの造成等を行っていますが、まだまだ不足している部分がございますので、3番目にある白老版DMOの構築（地域の観光ネットワーク化）と連携をしながら、白老観光協会が観光地域づくりの司令塔となってプロジェクトや、マネジメントをしていき、その中でターゲットや観光コンテンツを造成して、地方誘客、旅行消費の拡大につなげていきたいと思っております。真ん中ですが、新たな観光資源・観光スポットの発掘・洗練（ブラッシュアップ）ということで、アヨロ鼻灯台利活用検討、ポロト自然休養林の誘客促進活動を行っております。

続きまして、次の10ページでございます。（3）、宿泊機能強化プロジェクト、①、多様なニーズに対応した宿泊施設の整備ということで、この部分については、実施内容としては老朽化のホテルのリニューアルや、ハク（haku）ホステルや、温泉民宿元和やなどの部分が老朽化施設を設備してリニューアルしたという実績がございます。3番目の外国人観光客の対応強化（多言語対応、礼拝等への対応）ということは、前段でも説明しているとおり、観光インフォメーションセンターに翻訳機を導入したり、多言語の講習会を実施したり、今年度の地方創生推進交付金を活用して指差し確認ボードを作ったという実績となっております。

続きまして、②、人材の確保・育成でございます。実施内容としては、ガイド人材の育成講座を実施しており、年6回実施して40名の受講者がおられました。そのうち、27名がガイドとして登録していただきました。来年度以降はそのガイドとして登録された方を中心に、白老のアイヌ文化であったり、白老の自然であったり、白老の歴史に特化したガイドの育成をしていきたいと考えております。③、遊休宿泊施設の再開に向けた協議調整ということで、実施内容としては虎杖浜温泉ホテルですとか、先ほど説明したハク（haku）ホステルがリニューアルをして再開をした実績がございます。④、新規宿泊施設の開設ということで、星野リゾートが2020年5月中旬を着工予定として、2021年冬の開業を目指すことになっております。

続きまして、11ページ目です。（4）、広域観光交通・誘導強化プロジェクト、①、広域観光交通ネットワークの整備ということで、1番目は昨年10月30日にレンタサイクルの運営協議会が設立されております。そのレンタサイクルを活用したサイクリングマップも作成しております。2番

目として、広域周遊観光バスの運行、利用パス等の造成ということで、こちらは交流促進バスを導入しております。当初、4月24日から運行予定開始でしたが、ウポポイの開業延期に伴って5月29日から運行する予定でおります。その利用状況によっては利用パスの導入も検討しています。3番目、JRの特急列車の増便ということで、3月14日特急北斗が停車して19便特急が増便されて、すずらんと合わせて31便となっております。また、登別市の都市間バスは、登別の温泉からウポポイ、千歳空港を経由するバスも4月から運行予定だったのですが、ウポポイの開業までは延期すると聞いております。②、広域観光圏と連携した観光情報の発信ということで、東、西の広域でウポポイを絡めたパンフレットを作成し、各広域の観光施設にパンフレット等を配備していただいているところがございます。③、白老市街地への案内サイン等の設置ということで、こちらも国や北海道の協力を得ながら、国道36号の4車線化や、ウポポイの誘導看板の設置等を積極的に行っていただいております。

続きまして、(5)、象徴空間関連交通ネットワーク強化プロジェクト、①、観光バス等の導入ということで、こちらは繰り返しになりますが、交流促進バスの導入、デマンドバス拡充等で、今までデマンドバスは1台であったところが、5月11日から4台体制として運行いたします。次の12ページ目です。②、交通ターミナル機能の拡充ということで、交流促進バスの導入や、通行アクセス機器のバリアフリー機能の強化として自由通路に臨時改札口を設置いたします。臨時改札口の営業時間としては、8時半から18時ということで、特急、普通、上り下りを合わせて35便で対応する予定でございます。

続きまして、③、交通渋滞対策・街なか回遊の促進ということで、実施内容として、観光インフォメーションセンターに公共駐車場を83台停められる部分を整備しております。④、観光ウォーキングコースの整備ということで、三角印となっておりますが、今後着手型プログラムを造成していく部分と、JRとヘルシーウォーキングや、レンタサイクルマップも作成しましたので、ここを活用して観光ウォーキングコースであったり、サイクリングコースであったりというのを造成していきたいと考えております。

続きまして、(6)、特産品開発・販路拡大プロジェクト、①、魅力的な特産品づくりということで、平成30年ぐらいから地方創生推進交付金を活用して、オハウ、エント茶、エント茶のソフトクリーム、エントクッキー、白老牛カレー、虎杖浜たらこのパスタソース等を作っており、白老牛カレーと虎杖浜たらこについては、民間事業者の協力を得ながら、素材としては阿部牛さんから肉を購入し、カネシメ松田水産(株)から購入したたらこを使って商品造成をしております。今年に入ってから、仕出し店の4店舗がシラオイ・イペを立ち上げて弁当を考案した実績もございます。

続きまして、アイヌの伝統文化を生かした工芸品、土産品の生産、販売体制の強化ということで、観光インフォメーションセンターに現在は物販をしていませんが、アイヌの団体チシボや、フッチコラチなどの団体のアイヌの工芸品も置く予定でございます。アイヌ協会をはじめ、フッチコラチですとか、個人でされている方も商品造成はされていますし、アイヌの文化というのが着実に浸透してきているのかと思っております。

続きまして、13ページ目です。②、既存商品のブラッシュアップでございます。前段でも申し上げ

げましたが、白老牛カレーなどが造成されているのですが、オハウのレシピ講習会を実施して 20 事業者ぐらいが参加されて、つい先日大町食堂でチェップオハウのアイヌの伝統料理をした日替りメニューが提供されておりますので、ここの講習会に参加された方がこのレシピを元にそのような動きもあります。③、ブランド力の強化ということで、しらおいブランド認定制度の構築として、進捗状況としては未実施となっております。今後については、民間主導による自主的なブランド力の強化が検討されておりますし、DMOが監修して白老の原材料が使われていることや、アイヌ文化のエッセンスが取り入れられていることをそのDMOが監修して、ブランドのロゴをつけるなどして、そのような形でブランド力の強化も検討されるのかと思っております。2 番目として地場産品のPR・情報発信ということで、ふるさと納税の返礼品によるPR、観光インフォメーションセンターの整備ということで、今日の新聞にも載っていましたが、地域おこし協力隊の林隊員が道外の利用者に町内のスーパーで購入した魚介類などを配送するサービスというのが北海道新聞に載ってましたので、今新型コロナウイルス感染症で大変な中、地元と地域おこし協力隊が様々に連携して、今後町としてもサポートしていかないとならないのかと思っております。続きまして、④、販路拡大でございます。町内外における地場産品を取り扱う店舗の拡大ということで、現在物販はしておりませんが、観光インフォメーションセンターに地場産品を置く予定でございます。また、空き店舗や創業支援の事業も継続して実施する予定でございます。また、焼肉チェーン店の畜産業の参入や、白老牛の取扱いの拡大が図られたという取組となっております。インターネット等を活用した通信販売、消費地向けの流通の拡大ということで、白老ねっと商品、ふるさと納税返礼品という内容となっております。首都圏等におけるマーケティング、プロモーションの推進ということで、広域でウポポイを中心としたマーケティングや、プロモーションを積極的に行っていただいております。

続きまして、(7)、地域活性化推進体制及び人材育成プロジェクト、①、白老活性化推進組織の設立ということで、まちづくり会社の設立として、DMOの候補法人と、DMO戦略協議会が立ち上がりました。今後はここを中心に観光施策の強化を図っていきたくと思っております。②、人材の確保ということで、専門的な知識、技術等を有する人材の確保（移住定住事業との連携）で、ここがバツとなっております。地域おこし協力隊を積極的に採用し、白老観光協会に物販マネジャーを昨年採用しております。今後は白老町の観光消費額などの部分も詳細に分析してマーケティングできる人材の確保が必要になってくるというのは担当課としても考えています。そこのマーケティングをしっかりと実行して、本町の地域資源にどうつなげていくかというのが本当に重要になっていきますので、ここの部分は時間をかけずに早急に課題解決していきたくと思っております。公募等による人材の発掘（地域おこし協力隊等）ということで、まち・ひと・しごと創生総合戦略の有識者会議公募委員の登用や、地域おこし協力隊の採用です。3 番目として、各種地域活動を通じた人材の発掘ということで、みらい創りプロジェクトによる町民のプロジェクトリーダー出現で、若い方がこの場でいろいろなことを学んで社会に出て活動しているという事例がございます。また、創業支援で進出してきた方に若手就業者がいます、そのような部分では 18 件の実績がありますので、今後この方々とも連携しながら地域活動を活性化していければと思っております。③、人材の育成

ということで、ここも1番目、事業企画運営、商品開発、販路拡大、ホスピタリティや、そのイベント等のコーディネーターの育成という部分はバツとなっておりますので、②、人材の確保の部分で説明したとおり、ここの部分も早急に進めていければと思っております。各種学習会・講習会・研修会・視察等の実施ということで、おもてなしガイドですとか、アイヌ手工芸の担い手養成講座というのは、令和2年度においても引き続き実施していきたいと考えております。

最後です。(8)、集客交流拠点整備プロジェクトということで、観光インフォメーションセンターを整備しており、ここが中心となって様々な観光機能の役割を担っていければと思っております。以上で説明は終わります。

○委員長（広地紀彰君） 本日は、商業観光計画の進捗状況を力点に置いて整理をいただいているところですので、委員会各位におかれましてもその進捗状況についての質疑を中心をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまより質疑をお受けいたします。委員から質疑のあります方はどうぞ。

及川保委員。

○委員（及川 保君） 及川です。今、商業観光計画の経過の説明を受けましたが、私はこの全体の中で1番気になるのが、今までウポポイ開設に向けて、また、開設後の取組も総合的なことも含めて進めてきた経緯があるのですが、最後の段にあった人材の育成、それから確保、非常にこの部分がなかなか思うようにいっていないような気がしてならないのです。ここを担う課長さん、そして担当課の職員を含めて、この人材育成というのは非常に重要な部分を占めていると思うのです。このことをしっかりと進めないと、今このバツ印になっているのは、ただこのバツ印ではなく、どう進めていくのだということが何も語られない状況が今見えるのです。この辺りの考え方をまず聞いておきたいと思えます。

それともう1点はガイドです。これも人材の部分には入るのですが、私たちはいろいろな先進地の状況を勉強してきております。その先進地の状況というのは、まちが直接関わるわけではなく、民間がそれを担う状況にあり、そうしなければいけないのですが、そうすると、白老版のDMOの在り方といいますか、これから認定される状況にはなると思うのですが、この辺りをぜひ活用して、重要な観光客に対する、単におもてなしという言葉だけのことではなくて、やはりしっかりとしたガイド育成が私は大事な部分だと感じるのです、この2点について伺っておきたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 課長、担当者を含めた人材育成の重要性が1点と、それから観光協会、あるいはDMOという部分を含めたガイド育成の在り方の2点かと思えます。ご指摘いただきましたとおり、我々行政といたしましても、その専門性を深めながらやはり我々がまず育っていくことというのがまず一つ大切な視点かと思っております。それから、ただいま観光協会に物販のマネージャーを採用することや、あるいは地域おこし協力隊、コンシェルジュ的な機能と、あるいは森林ガイドでも採用させていただいて、中からも外からも人をとりあえずはベースアップしていくような取組は今実施しているところであると考えてはおります。それぞれが目標をしっかりと共有しながら将来ビジョンを持って、どのように切磋琢磨していけるかというのは、今後どの事業でと

いうよりは、常に意識づけというものを含めて取り組んでいかなければいけないだろうと思っています。ただ、地域おこし協力隊などを例に取りますと、希望する人材も来ていただいておりますが、そのボリュームとといいますか、濃淡がやはりあります。経験のある方がいらっしゃったり、本当にチャレンジしてみたいという方がいらっしゃったりということもありますので、全体的に底上げできるような取組は進めてまいりたいと思っています。そのような取組については、これまでもアイヌ施策推進交付金など、様々なものを活用しながら取組を進めてきておりますので、今後もしっかりとその辺のところを見極めながら取組を進めてまいりたいと思っております。

それと観光協会の在り方、DMOの在り方でございます。人材育成に共通して考えられるのかと思うのです。観光協会、DMOといたしますと、やはり私たちのまちにどのような取組をもって来てもらえるか、目的地化をしてもらえるかというのがDMOの最たる目的かと思っています。そういった中ではマーケティングをしっかり分析をして、必要な効果的な周知、誘客活動もしながら、それにはおそらく魅力的な商品開発、着地型プログラムなどのいろいろなものをDMOが中心になって、求心力、訴求力を持った組織にしていかなければいけないだろうとは考えています。人材等の重複があるかとは思いますが、地域おこし協力隊を採用してコンシェルジュ機能を高めるなど、この後の構成ですので少々検討の余地はあるかと思えます。いろいろなガイド育成もしておりますので、DMOに集う形になるのか、それぞれ個別に取組を進めていくのかというようなところも含めて、その在り方についても引き続き考えていかなければいけないだろうと思っています。しかしながら、やはり競争の社会の中であらゆる自治体と競合しながら、白老がウポポイを核にしながら様々な地域からお客様に来ていただくための目的地となっていくためには観光協会、DMOというのは非常に大きなウエイト、中心的な役割を担っていただかなければならないと思っておりますので、我々も当然ですが、観光協会ともしっかりと密に連携を取りながら進めてまいりたいと思っておりますのでございます。

○委員長（広地紀彰君） 及川保委員。

○委員（及川 保君） 富川課長のおっしゃっていることは十分理解するのです。ただ、どうしてもオブラートに包んだような、全体的な基本的な考えだと思えます。やはりそこには温かみというか、観光客はいろいろな資料を調べて訪れると思うのです。そのような観光客もいれば、飛び入りで来られる方もおられます。様々な形態はあると思えますが、そういった中でどのような方々にも温かい気持ちでお迎えできる、私はこの体制が非常に大事だと思うのです。ということは、2点目に私がお聞きしたガイドの部分なのですが、一人一人がそのことを十分に認識した中で対応していただけるような形をぜひ取っていただく、町としてしっかりその辺りの体制を整えておいてほしいと思えます。

それともう一つは、地域おこし協力隊の方々には3年間の任期がありますから、任期の中で終わられてこの地から去っていく方もおられるわけですね。ちょっと耳に挟んだところでは、非常に冷たい対応というか、ほとんどが「ああ、終わったんですね。」という感じで済まされてしまうようなことが見受けられると、こう言っている方もおられるのです。そういうことを聞きますと、やはりせっかく白老に来て3年いて、白老ってよいところだと、温かいところだというぐらいのものを持つ

てほしいですし、どうしても事情があつて去っていかなければいけない方々がおられるとは思いますが、ぜひ、そのような方々に対してもきちんとした温かい対応をぜひ白老の町民としてお願いしたいと思うのですが、その辺りの考え方を伺いたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず、温かみのあるおもてなしというところの受入れ体制づくりでございます。昨年来、行っている人材育成のガイド養成講座などでも、アイヌ文化の見識、知識を広げることを重点的に取り組んできたところかと思っています。また、教育委員会で行っている館長とまち歩きというような事業もございますが、そういった中でも多く皆さんにご参加いただいて、まず知識を広げていただいているという状況かと思っています。町といたしましては多文化共生の中で、どのような方が来てもここでしっかりとご満足いただけるような受入れ環境は整えていかなければいけないと思っております。まずは開設前の時期にあつては知識を深めていただいて、理想とすれば組織体というよりは、まちで出会った町民の皆さんが観光客の皆さんにちょっと聞かれたときに一言、二言教えて町のことをPRしていただけるような環境になることや、触れ合いがおそらくは観光客の皆さんにとっても非常に満足度の高い印象になってくると思います。まずは事業としての知識を深めることを昨年来まで進めてきました。今年度はアイヌ文化だけではなく、町全体のこともさらに知識を広げていただきたいと思っております。この参加者を少しでも広げていくことで道行く人とのすれ違いでも温かみが感じられるような取組の広がりにつながっていくのかと思っておりますので、啓発、啓蒙も含めて考えてまいりたいと思っております。

そして、地域おこし協力隊の関係につきましては、3年が終わって「よかった」という感じで終わっているというようなお話かと思えます。基本的には3年が終わられた方では、ほぼずっと残って皆さん何かしらの活動をしていただいている現状になっていると思えます。3年間の過ごし方がどうであったか、あるいは3年後、退任してからの取組がどうであったかというのはそれぞれ濃淡あるところかとは思えます。基本的にはそれぞれ皆さんがせっかくこの3年間、この地で過ごしていただいて、この先もしっかりとついの住の住みかではないですが、生活の拠点として残っていただいて、まちによい風を吹かせていただくというのが我々の希望でございますので、もし少々至らない点があったとするならば、しっかりと反省しながら、活動中、活動後のケアについては取り組んでまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員からの質疑をお受けします。

久保一美委員。

○委員（久保一美君） 久保です。今まで説明いただいた部分に関してはあまり問題ないのですが、私から見て少々忘れているのではないかという部分がありましたので発言させていただきます。ウポポイを核にして白老にある、陣屋資料館などを巡って歩いて、白老に来訪してくる人の中には見学目的であったり、観光目的であったり、いろいろだと思っております。団体で来る人や、マイカーで来る人もいます。この中には書いていないのですが、元々ある白老町における景勝地や観光スポット、そういうところにも少し目を向けてほしいと思っております。ヨコスト海岸ではボランティア団体のごみの収集などをして非常にきれいになりました。その場所には鹿の群れが塩をなめに国道

を横断してきます。鹿がたくさん出るといふ地域は警告を促す看板などがよく設置されていると私は記憶しているのですが、あの場所にはないのです。そして今、設置されている歩道にあるガードレールの高さだと簡単に越えてしまうのです。ということは、あの範囲の中からはどこからでも出てくるのかと思います。それで鹿を全く通られなくするのか。ある程度は私の考えですが、やはりヨコスト湿原のところには水や塩をなめに来る鹿も、観光目的で来た人にすれば絵になると思うのです。そして、ある程度誘導して、ここから出てきますだとか、鹿飛出し注意などの促しをして、国道を通行する人があらかじめここはスピードを落とさなければならないというような自覚をして走ることができるような設備の設置等なども必要だと日々思っています。

それから、インクラの滝です。滝 100 選に選ばれていながら、あまり設備が整っているようには思えないのです。この先、ウポポイが開設されて、白老町内の中に景勝地やスポット巡りをしたいという人が多分、現在よりも多くなるということは間違いないと思いますが、現在ある林道の幅では迂回するところもなければ、元々の道路幅も細すぎて交差できるような幅まで確保できていないというのが少々気になっています。そして、旧白老中学校のところのふれあい広場でもグラウンドはあるのですが、遊具などもあり、時間のある家族などが利用する可能性もあると思うのです。あの辺も、今でも駄目だとは言いませんが、それに合わせた整備も少々必要ではないかなどと考えています。ここにはアヨロ鼻灯台が書いていますが、その部分で言うと、私は最初に思いつくのは積丹岬の古い灯台など、何か岬があり、そこに古い灯台があるという、何もなくても人というのは見に行きたくなるものなのです。そういうところももう少々きれいに整備すると人が集まりやすいですし、観光資源としてのよい要素がたくさんあり、その部分がまだ私にしてみたら全部原石のようにしか見えないのです。そこに磨きをかけていくと、少しでも白老町に来た見学者なり、観光目的で来た人が長く滞在して、飲食店も利用していただけるし、白老の経済効果にもつながると思っています。

○委員長（広地紀彰君） それでは観光地としての魅力、受入れ体制の強化の点にかかっているご質問です。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 鹿の関係については警告の看板などがヨコストにないということですが、これは担当課に確認してということになるかと思いますが、ここでは遠慮させていただきたいと思います。また、国道のガードレールは、おそらく 60 センチメートルぐらいしか高さが無いのだろうと思いますので、実際鹿を考えますとやはり 2 メートルとかの網とかでもなかなかうまくいかないところもありますので、現実的にどうできるのかというところは、この辺も含めて交通の関係や、まずは生活環境課と少し話はさせていただきたいと思います。それからインクラの滝の、林道といいますか、町道の整備を拡幅するというのはなかなか困難かと思っておりますが、フォトシーズンには覆いかぶさるような樹木や木の枝は管理上、伐採で対応して、ある程度のバスなどが通れるような高さは確保して御覧いただけるようにはしているかと思っております。それから昨年、森林管理署では遊歩道の部分についての改修をしていただいたという部分もあります。ただ、現状として展望台のところについては少々崩落の危険があり、なかなか修理ができていないの

ですが、昨年見晴らし台のテーブルが少し焼かれまして、その焦げた部分については補修をするなど、できる範囲でインクラの滝の部分についても環境整備に努めているというところでご理解いただければと思っています。

そして、ふれあい広場の関係につきましても、生涯学習課の所管にはなりますが、基本的には広場としての機能で、ときに少年野球や、サッカーで使っていただいたり、周辺はウォーキングコースがあったり、それから一応西側にはコンビネーション遊具も設置して、地域の皆さんにご活用いただけるような形にしております。今後の機能充実については、こういったご要望なり意見があったことを担当課に申し伝えさせていただきたいと考えております。

それからアヨロ鼻灯台の関係につきましても、平成30年度に200数十万円をかけて地域の皆さんに検討案を考えていただいております。その後の事業実施の部分につきましても、やはり事業財源の確保も含めて検討はしていかなければいけないかと思っています。町としてもこのような取組を通して観光資源として何かしらの活用ができないかと地域とのお話し合いをさせていただいたという部分はございます。元々が海上保安庁からそういったものも含めて取得したという経緯もございます。今後その辺については町全体の景勝地という部分の位置づけの中で検討を進めていければと思っています。

それと、ウポポイを中心にいろいろと巡回するというようなお話は、総体的にはそのようなことで、個別のご意見いただいたかと思っています。新年度から交流促進バスを運行する中にあるのは、仙台陣屋資料館にも立ち寄るようなコース設定をして、個人のお客様など、公共交通機関をお使いのお客様にとって少しでも町内を巡回できるような環境については我々も努力してまいりたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 久保一美委員。

○委員（久保一美君） よく分かりました。先ほど提案したことについての答えに対しては異議はないので、これで終わります。

○委員長（広地紀彰君） ヨコスタ海岸の鹿の関係ですが、4車線化が要望活動の結実で実現しましたので、交通の流れがよくなった反面、やはり少々交通安全の観点からも鹿についての啓発看板は必要性を増しているかもしれませんので、生活環境課とよく協議をされるようにと特に申しておきたいと思います。

それでは、一度暫時休憩いたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時16分

○委員長（広地紀彰君） それでは休憩を閉じて所管事務調査を再開いたします。

それでは、質疑をお受けいたします。質疑のあります方はどうぞ。

森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。今回の白老町商業観光計画についてです。こちらは平成28年から31年まで実施ということで、56事業のうち40事業が実施をされたことで、計画の前と今と

では町並みや観光客の受入れ状況というのは大きく変わったのかと思います。そして実施状況を見ましても、ほぼ実施されている状況のため、観光の方にとって来町しやすい環境づくりはできてきているのだと実感するところではあります。先ほど及川委員からもありましたが、進捗状況のバツ印になっているところは人材に関するところですので、今後の課題でもありますし、やはりこういった人材に関することは白老町全体の課題でもあるのかと今回の資料を見て感じたところでもあります。そこで、重点事項が書かれている6ページ、7ページで計画期間内の話についてお伺いをします。こちらに観光入込客数、外国人来訪者及び教育旅行者数については大幅減となっている現状が書かれています。まず確認したいのは現状についてなのです。これらの人数が大幅減したことによって、計画期間内に起きた地域経済の影響についてはどのようになったのか、町で押さえているところをまずお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず、今ご指摘いただきましたとおり、観光入込客数、外国人来訪者、教育旅行者数は軒並み減じているという状況になっております。特に観光入込客数は300万人の目標に対して151万人となっており、今まさに半分という状況になっております。これについては、冒頭の説明でもさせていただきましたが、やはりアイヌ民族博物館の閉館というものが非常に大きなウエイトを占めております。外国人の来訪者について、あるいは教育旅行についても基本的にアイヌ民族博物館の数値をここの目標値ということである程度行っていたものですから、その評価を図るところが今持ち得ていないのです。町としては外国人の来訪者などの部分を個別に図るとすると、なかなかそれ以外に図るところをあまり持っていないため、数字は極端な落ち方をし、あるいは成果を図ることができないとなっています。そのような中で地域経済の分析では、30年度、31年度において、観光消費の動向調査を今まとめているところでして、影響をしっかりと分析していかなければいけないだろうとは思ってはおります。少なくとも日帰りの旅行をされる方の町内の消費額が1人当たり約8,000円という数字がございます。これはほとんどの場合が日帰りだとガソリン代というところが大きなウエイトを占めるというようなこともあります。これが丸々アイヌ民族博物館を含めた20万人強の前年度からの落ち込みに当てはめるとするならば、やはりそれなりの金額が単純に直接的に減ずる数字としては出てくるだろうとは思っています。併せて白老町はどちらかといいますと日帰り、通過型といわれておりますので、その日帰りのお客様の減少というのは直接的に観光地域経済に与える影響は大きいと思います。その観光消費額としては1人当たり8,620円という数字がございますので、その部分への影響についてはあるかと思えます。ただ、詳細についてはある程度まとめて分析しているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 観光入込客数の上期で計算すると、令和元年度では一応上期のときには97万9,000人ぐらいで、前年比5万6,000人ぐらいの増だったのですが、ただ、今下期の入込みを調査している最中なのですが、相当落ち込むだろうということで、5月末ぐらいには令和元年度の入込客数を公表できるのかと思っております。外国人来訪者数も1万1,000人ということで、旧アイヌ民族博物館に平成28年で外国人来館者数が7万1,000人、平成29年では7万人ぐら

いのため、約7万人が旧アイヌ民族博物館を訪れているということで、この部分もウポポイの開設に伴うと目標達成には少々難しいかというところではございます。

○委員長（広地紀彰君） 森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。まだ調査中というところもありますから、細かい数字は今後出てくるとは思います。大幅減したということで与える影響というのは今後大きな数字が出てくることであります。今の新型コロナウイルス感染症が広がっている情勢もありますので、今後は地域経済に与える影響というのはさらに大きいのかと感じているところであります。そこで伺いますが、この7ページの下の方に、地域活性化の実感のある果実の獲得に向け、引き続き効果的な取組を進めていくことが必要であると書かれております。本当にこれは大事な一文だと思って私は読んでおまして、観光商業計画を推進していくことは白老町にとって大事な視点であると思います。こちらは平成31年で終了した計画になっております。それで令和2年度以降も、この商業と観光の振興というのは本当に重要であると思いますので、今後は商業観光振興において、また新しい計画などをつくって行われていくのか、今後の進め方について、この1点をお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今回、2回の所管事務調査ということで伺っておりますので、1回目は現状をご報告させていただいて、この後、2回目でご説明とと思っていました。もう少し熟度を深めて検討しなければいけないだろうとは思っていますが、これらの検証を踏まえてやはり観光振興計画などの部分についてはつくっていかなければならないだろうという考え方ではあります。これらを踏まえて、ウポポイ開設前というのがこれまでの計画だったかと思っておりますので、これからはウポポイができて、それを核にして、原動力にしてまちをどう動かしていくか、まちの活力をどう生み出していくかということも含めて、その大きな要素としては観光というようなウエイトが大きいです。地域の商業についてもどのようにしていくかという部分はありますが、今の段階では観光に力点を少し置いた計画づくりにしていこうかと思っております。その辺のところを含めて、方針が決まって、令和2年度中に策定作業に入らせていただきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 長谷川です。12ページの白老駅における駅北の民族共生象徴空間への通行やアクセス機能、バリアフリー機能の強化というところがありまして、そこで点字ブロックの整備等とあります。今はまだ北側の一部で点字ブロックが設置されていなくて問い合わせたところ、令和3年度までには完全に設置するというお話を聞きました。ただ、設置をしたはいいが、健常者の方というのは、点字ブロックがあっても実際にどのような方が困って使っているかというところを実際お見かけしないとなかなか分からないところが結構あって、自転車を置いたり、車を置いたりする方もいらっしゃいます。目標としては、このようにいろいろなことが推進されて、実施されていても、いざ使うというときになったら困る方もいらっしゃるため、そういうところの周知をすることが一つです。もう一つは、駅前が整備されましたが、車で私も入っていくと結構迷ってしま

ったので、できたけれども不備なところや、不便なところがあるというところは、町側としてこれからどんどん町民の声を聞いて、いろいろと改善していくところは改善していくという、そういう姿勢でよろしいかをお伺いします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 少なくとも町民の皆様や、あるいは来訪、ご利用される皆様に不便といたしますか、支障があるものについては改善をするというのが前提になっていくかと思いますが、それぞれの事業費の関係や、喫緊性の問題などを総合的に勘案しながら、各年度に要求を重ねながら改善ということになると捉えております。実際やはり不具合が見つかるというのは多分にあることだと思いますので、できる範囲で対応するという考え方でいきたいと思っております。我々のセクションだけではない部分になりますので、全部網羅したお答えということにはなりません、少なくとも我々が所管する部分については、そのような改善について前向きに取り組んでまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 貳又です。まず、今日は商業観光振興計画についての進捗状況を説明をしていただいて本当に理解いたしました。その中で、次回また所管事務調査の2回目がありますので、そこに向けても関連してくるところだとは思っております。計画は分かるのです。ただ、今、DMOを目指している中では、観光地経営の視点が非常に大事です。その中でいうと、計画上の進捗は分かりませんが、もう一つ大事なのは、これだけ町税をはじめ、町の財政が厳しい中で、どのように稼いでいくかという考え方が必要です。例えば観光協会は元々5名体制で、現在は地域おこし協力隊や、パートで雇用されています。その5名体制のときは、運営費補助金などでは、人件費見合いで約3,000万円があったのかと思いますが、それがきっと今地域おこし協力隊も国からお金が入っていても、それも一つの企業体とみなすのであれば、人件費はかなり大きくなっているのかと思います。これが国からの支援が切れたときにどう回していくのかというところできると、その会社自体の、DMOを一つの会社と置き換えると、どのように自活して経営できるのかということ、また、その人件費も町からの100%人件費補助を頼らずに、それを8割、7割、5割と持っていくという考え方は非常に大事だと思うのです。ですから今、この観光振興計画は今大事なところでいくと、42ページに50数本のプロジェクトがありますが、これは行政で行わなければならないものです。ただ、またこれは一方ではDMOが行わなければならないものというところの色分けは今度必要になってくるのかという感じがしています。その中で観光経営の視点の中でまず一つ聞きたいのは、5名体制時の観光協会から、今どれぐらい人件費ベースで増えているのかについて伺います。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 5名体制のときは、昨年で約2,700万円の補助金でございました。今年度は約2,300万円の運営費の補助金となっております。実は指定管理の中に人件費という部分でいくと、約1,700万円の指定管理料でございますので、その中で人件費が約800万円となっております。既存でいきますと、約3,000万円を少し超えるようなこととなりますので、今観光協会の体制として千葉事務局長を中心に若い雇用者がいますので、その金額でまだ収まっていますが、

今後は増えていく部分でありますので、貳又委員がおっしゃるとおり、今後は大型バスの駐車場の誘客をして収入を得たり、観光消費を造成してその部分で収入を得たり、そのような部分が必要になっていきます。先ほど多くの委員の方からありました人材の確保をとという部分でいくと、やはりこのような部分を白老町に点在する地域資源をどううまくつないでいくかなど、その上では分析やマーケティングなどが必要になっていくと思います。そこを強化しながら観光の知見の視野に立った取組や、自分たちで経営できるような取組につないでいかないと駄目なのだろうと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） これからやはり観光地経営は非常に大事な考え方ですから、議会としても計画そのものの進捗ということだけではなく、もちろん経営という、お金がどれだけ生まれて出されているのかという考え方が非常に大事だと思うのです。それで、今までは観光入込客数 300 万人目指しましょうという数字ももちろん大事です。ここで一つ私が聞きたいのは、先ほど白老牛カレーや、それからたらこパスタの話がありました。これも実際に白老駅北インフォメーションセンターや、あとスーパーくまがいでも扱いがされています。確認しますが、この商品は交付金を活用している事業ですか。

○委員長（広地紀彰君） 臼杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（臼杵 誠君） 白老牛カレー、パスタソースについては、交付金活用ではなく、札幌の国分北海道がウポポイ応援ということで、官民連携ネットワークにも入っていただいている企業でもありますので、自主的に開発していただいたものになっております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 地方創生推進交付金でまた商品開発等も進めるわけですね。これは公費が入っているわけです。たらこのパスタソースや、白老牛カレーが実際に販売価格 1,000 円で売られているということだと、具体的にいうとスーパーくまがいさんは卸価格で、仮に 600 円で仕入れて 1,000 円で売っているのであれば 400 円の粗利が出るわけです。では、その 600 円で白老牛として、阿部牛さんからお肉を仕入れているということであれば、阿部牛さんにはいくらかが入るわけです。その一つの商品を見てどれだけ地域経済や関係者に還元しているかということが大事だと思うのです。そういう意味で、これは観光商業計画ですから、その中で稼ぐ観光経営を目指すのであれば、DMOが所管する取組が大事だと思うのです。その中でDMOのための商品というのですか、それが仮に白老牛カレーやパスタソースをDMOがプロデュースしているものであるということであれば、白老牛カレーの 1,000 円のうち、10%は観光協会に入るという稼ぎ方もあります。そういう中で大事なこれからの観光地経営というのは、今せっかく駅北インフォメーションセンターがあるわけですから、これが外向けに発信するということよりも、やはり町民の方々にも愛される施設にならなければならないと思うのです。そのときに一つの白老牛カレーやパスタソースが札幌の会社で開発されているよりは、やはりできるだけ白老町内の皆さんでコラボした商品のほうが、町内からも愛される商品になりますし、胸を張って外にも売れる商品になるということで、それが一つの事例でいうと、そのDMOとしての商品開発の在り方なのかというのは私は思うわけで

す。次の展開として、もちろんこれは計画ですから、より方向性を定めます。例えば商品開発でいくと、より地域経済を生む商品開発を目指すということです。ただ、実際に動かす部分では、それにはその商品にかかる背景としては、これだけ多くの町民の皆さんが関わった商品なのだと思います。具体的に言いますと、白老町に今お住まいの高齢者の女性の皆さんを集めたプロジェクトから生み出された、牛の大和煮だとかができれば、町民からも愛され、その方々も今度それをPRしますから、そのような展開が必要になってくるのかと思うのです。ですから、また次の所管事務調査では、ぜひその次のステップを踏めるような議論をしていかなければならないと思いますので、今回一つ観光入込調査などは上の統計数値ですが、要は下からどのようにお金が生み出されていくかという発想がやはり大事なのだと思うのです。ですからこれは商品開発一つで言いましたが、そのほかにもレンタサイクルもそうです。これもどのようにしてお金を生み出して、人件費をそこで補てんしていくのか、仙台陣屋とウポポイの共通パスのチケット販売で、どう観光協会に収益を生み出すのか、やはりそれが無いといつまで経っても、これはずっと議論されておりましたが、観光協会に対する補助金は、指定管理ですと、そこからお金も入ってなかなか見えなくなってきました。結局スタッフに払っている人件費があるわけです。それをいかに収益を出していくかという次の討論や議論をできる部分は、次にそこまで踏み込んでいただきたいというのが私の願いでもあります。まずそんな中でこれは私としての要望だけではなく、次の商品開発にかかる部分ですとか、観光地経営を生む稼ぐ部分の考え方について1点お聞かせください。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 貳又委員がおっしゃることはもっともだと思います。まず、これまでただの観光協会ではなく、DMOという地域を目的化させるための知恵も人もという体制づくりが必要だということで、このDMOを取り組んできた経緯があるかと思っています。その基本となる部分は、まさにDMOは地域内を回すのではなくて、外からどれだけの人をこちらに持ってくるかということが主眼になると思います。そのような中ではDMOの体制強化をして地域経営という部分の基本にその外から持ってきて、そのためには商品開発などの部分の魅力を高めていくということが必要だろうと思っています。観光協会に単純に補助を出すのではなく、指定管理を行った中でどれだけ自主財源を稼いでいただいて、DMO化していく中であっては自分たちが経営主体であるという意識は多分に必要であろうと思います。そのような中で体制強化や経営の戦略部分についてもやはりしっかり考えていただくように、我々も関与しながら指導も含めて一緒に考えていかなければいけないだろうと思っています。

それから商品開発については、今回は札幌の企業が自主的に、白老牛カレー、たらこパスタソース以外にもオハウの缶詰など、白老に由来する商品をその会社で作られています。やはり顧客満足度というのが非常に重要な問題かと思っています。貳又委員がおっしゃる中で言いますと、町民満足度に置き換えてできるのかという部分と、作り手のストーリーがどこにあるかという満足度というようなところも非常にウエイトしては大きいのかと思います。隣のお母さんが作ったものが商品になっていって、それが広く皆さんに愛されるものになっていくということが、本当の意味では非常に大切なことで、小さな成功体験のようなものを町民の皆さんがいろいろ積み上げていくことで

自信を持って誇りに思える商品につながっていくといいのかと思っています。そのような内容のものを少しでもできるように我々も勉強も含め検討をしていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 何度も言いますが、これは観光地経営において、この新型コロナウイルス感染症の関係でこれだけ社会情勢が変わってしまいました。そうであれば、DMOは観光だけでは続けていけないのです。外から求めている、これは駄目になってしまうのです。ですが、この商品開発、商品はインターネット等で全国の皆さんにオンラインで売ることができます。強みがあるわけです。ですから、これはまさしく商業観光振興計画を連動させる経営が必要だと思うのです。そのときに観光協会は、観光インフォメーションセンターはいつまでたっても新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない限りこのままかという、これはもう会社がつぶれてしまいます。ですから、そのほかにももう一つ強いものを持つべきです。それは商品を作って、それを外に売るということです。本日、くしくも太田主幹から地域おこし協力隊の林啓介さん、オルガさんの取組では、スーパーくまがいで新鮮な魚介類を首都圏に送るサービスを始めて、もう予約もかなりきています。首都圏のお客さんからしてみると、スーパーくまがいに並んでいるお魚は、東京では2倍以上の価格でしか食べられないわけです。そういったモデルも今できてきています。今までは直売でやってきた事業者も、今は切り替えていますね。そういった部分がこの計画の中に入っていて、かつ観光協会がきちんと経営をして町の負担を減らしながら外貨を稼ぐような、または町内消費も稼ぐようなところが必要なのかと思います。次の所管事務調査は具体的にその辺を掘り下げた部分が見えなければ、計画上だけのお話だとなかなか厳しいかという気がしたものですから、このような質問をさせていただきました。

○委員長（広地紀彰君） 進め方や次回の中身についてもお答えいただければと思います。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 計画を策定する段階にまで入ってきてしまうような内容になるのかということで、どこまでそのようなお話を次回踏み込んでいけるかと思いますが、DMOのお話で言えば、今お話されたように元々は目的化させて実行する、外貨を稼ぐということです。インターネットで外に発信していくための地域の特性のある、魅力ある商品造成というのが必要なのだろうとは思いますが。時代に即した考え方については次回でも方針といったところに含んでご説明ができるように検討は進めたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 今年も今度は観光にやや特化した軸足を移した形での計画はつくっていきたいと見解も示されています。ぜひ各委員からもこのような時期の経過で、このようなことを観点到に盛り込むべきではないかというような建設的な議論をしていくことで、新しい計画づくりにもつながってくると思います。ぜひ次回もそのような提言も含めた形式ある質疑を取り組んでいきたいと私としても考えます。ほかに質疑をお持ちの方はどうぞ。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 今回の説明、非常に丁寧に説明していただきました。今まで、まち・ひと・しごとということで、随分国からの補助金とか、いろいろな形で白老まちの活性化のためにここま

でつくってこられて、かなりいいところまできているのかと私は思っております。そこで、何点かお聞きしたいところがあります。

まず1点目が、観光インフォメーションセンターの駐車場です。これは以前もお話がありました。ウポポイ側の駐車場があります。そこで渋滞が生じるのではないかという問題です。もう一つは向こうの駐車場では駐車料がかかります。末広町にも一般車両の第2駐車場をつくりました。ところが白老の観光インフォメーションセンターの駐車場は無料ということなので、実際にウポポイが開設されたら、ウポポイに見に行くためにそこに無料で長時間車を停めてしまって、買い物をしたい人がそこに入れない状況が出てくるのではないかという視点があると思うのですが、その辺りをどうこれから解決されていくのかをお伺いします。

2点目が、しらおいブランドの構築についてです。貳又委員もおっしゃっていましたが、やはりしらおいブランドというのは多岐にわたると思います。食べるものからいろいろなものがあると思います。私は手工芸でお伺いしたいのですが、特にアイヌ文様というのは、その地域によって文様が違うといわれています。また、作る方々の技術の力量によっても、一つのものが10万円、20万円で売れるものになったり、申し訳ないですが、500円でも10円でもいないというものになってみたり、その技術の差というのはすごく大きいと思うのです。きちんとどこまでブランドを確立するのかです。食べ物ばかりではなく、このようなもの一つにしても、そういうところの基準をきちんと決めて、そしてそのブランドを確立するためのそういう知識や経験などを持っている方々にきちんと形をつくってもらわないと、アイヌ文様一つにしても、いろいろな形のもの一つにしても町外の方々から認めてもらえなくなるのではないかという危惧があります。その辺の確立を今はしていると思うのですが、どこまで考えてらっしゃるのかをお聞きします。

3点目はマネジャーを採用です。マネジャーを昨年1名採用しているので、観光協会も十分ですみたいな答弁があったような気がするのですが、今回はバツ印になっていますね。採用できなかった原因や、またこのような方に期待するもの、それはどういうものだから今までまだうまく達成できていないのか、その辺の原因を教えてくださいと思います。なぜこういうことを聞くかといいますと、今回新型コロナウイルス感染症の問題で、ウポポイも開設するの遅れていますし、やはり白老のまちの人たちに稼いでもらって、このまちがいいまちになるためには、いま一度、しっかりとしたものをつくられるいいチャンスかとよく捉えて質問させていただいています。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず、観光インフォメーションセンターの駐車場の関係です。ここは設計といいますか、計画の段階でその辺の懸念がずっと付きまわっているところかと思えます。今はウポポイが開業延期になっておりますので、先行して観光インフォメーションセンターの駐車場だけがオープンしている状況であります。有料の部分、無料の部分で言えば、少し歩いて無料のところへ停めたいという方いらっしゃると思います。今の段階では実際にどうするという部分はまだ検討段階であります。今後状況を見ながらその対策等は併せて考えていかなければいけないだろうと思っています。

それから、ブランドの構築についてです。元々は食材王国しらおい地産地消推進協議会というも

の中、食に特化してある程度ブランド化を促進、推進していきましょうという流れでありました。今のお話で今後のアイヌの手工芸というところについては、担い手の部分が不足している部分があります。まずは担い手講座があります。それから広くそこの認知を広めていくためにも、その担い手講座に一般の方も参加していただくことをこれまでしてきたかと思います。アイヌ文様は刺しゅうへの理解を広げるのがこれまでの状況かと思います。ただ、今おっしゃったように商品にしたときに精度の問題などで10万円、20万円になる人もいれば、500円、10円というようなこともあると思います。そういった部分のブランドによる、作品の精巧差、精密差、レベルの高さという面では、それを引き継ぐということがまず必要かということで、引き続き担い手講座というのは国のお金も使いながら実施していきたいと思います。そうしてベースを広げていったときにどのような形でアイヌ文様の知的財産といった部分を含めての保護を図っていけるかというのを、今後また、これについても検討が引き続き必要かと考えているところです。

観光協会のマネジャーの採用です。これまでの答弁などを含めて、まずは1名採用させていただきましたので、体制強化という部分では、人数としてはある程度充足していると思います。貳又委員がおっしゃっているような地域経営の部分を考えますと、やはりマーケターといいますか、分析ができる人がいいのか、あるいは外注して専門のところとアドバイザーみたいなことでしていくのがいいのかということとは必要かと思います。人として考えると、今はまだ確保できていないところで、途上という部分での印のつけ方にさせていただいているとなっています。分析をどうしていくか、実績を積み上げながら検証し、エビデンスをどう持って、次の一手を打っていくのかということです。そういうところに対しては、専門的な人なのか、組織、機関などを別にしても、そういったものが地域として必要だろうと考えています。その辺はDMOの体制強化と含めて、これも検討はしていきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 1点目の観光インフォメーションセンターの駐車場の件です。やはりそこは早急に考えていかなければいけないのかと思います。今、ポロトの前の道路が踏切工事をしてきれいになりました。私が1番驚いたのは、役場前の踏み切りを渡る車が本当に少なくなったことです。そして、皆さんが苫小牧方面に行くときには、向こうを必ずと言っていいほど通っていくのです。ウボポイの前を通過して、ポロトの踏切を渡って、そしてまちの中にまた戻ってくる人たちも結構いらっしゃるのです。人の流れが随分変わったと思います。そのようなところを考えて対応していかなければ、非常に混乱するのではないかと思いますので、ぜひその辺はお願いしたいのです。そして信号もつけなければいけないのではないかと思います。これは産業厚生常任委員会の担当ではないかもしれませんが、その辺も視野に入れて、一度検討していただければと思います。

2点目のブランド化の問題です。平取町や阿寒町に行きますと、向こうの方々は木彫りの一つにしても、手工芸一つにしても非常にプライドを持って良い作品を作っていると思います。特に木で作るものは、東北などもそうなのですが、木材が非常に高いのです。直径20センチメートル以下のもののお盆とかを作るのは非常に楽なのですが、それ以上大きいものになると大体20センチメートル掛ける倍の木材の太さがないと作れないのです。だから結局は非常に高いものになってしまう

と聞きました。20センチメートル以上のお盆になると、1万円以上するはずなのです。木が大体5,000、6,000円はしますから。そうなってくると、それだけの付加価値を付けたものでなければ消費者は買わないと思いますので、そのようなところも考えて、そして織物もぜひ良いものを作っていけるような組織体制をしていただきたいと思います。

最後にマネジャー採用です。今おっしゃった人材か、組織か。私もどちらがよいのかよく分かりません。大町商店街もそうですが、その観光ばかりではなくて、これから白老のまちのいろいろな商品を作るには、白老のまち全体をマネジメントしてくださる方が私は必要なのだろうと思います。そこについて、富川課長は結構いろいろ考えていらっしゃるみたいなので、次回のときにはぜひその辺もお伺いしてみたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず観光インフォメーションセンターからウポポイ前の踏切の関係です。私もこの辺に住んでいますので、やはり役場前の渋滞がなくなって、逆に言えば南北の長さがないものですから、向こうに渋滞の部分が出て、つまってしまう部分があるかと思います。その意味でも人の流れの変化は見て取れるのかと思いますので、状況に応じての対策はしっかり考えていかなければいけないだろうと思います。

それからブランドの関係については、私も阿寒町を見に行かせていただきました。そこで店を構えて、その奥に作った人がいて、プライドを持って、しっかりと物を展示しながら木製品ですとか、工芸品を販売されている方がいらっしゃいました。本当に材が高いということも含めて、そこにテクニックが入ってくるわけですから、しっかりとした値段がないと本当は商売に成り立っていかないのだろうと思います。我々はこれまでずっと取り組んできましたが、ウポポイ中心にアイヌ文化への理解促進がどれだけ広げていけるかということが、需要や商品価値を高める方策になるのかと思います。ブランドという部分と、まさに拠点ですので、理解促進をしっかり推進していきたいと思っています。

マネジャーの関係は、本当になかなか人材という部分ではないものですから、当面専門機関に依頼をしてしっかり数字を分析してもらうなどの方法もあるのかと思いますが、やはり経験を積んで、その分析から次の一手を考えられるような体制は引き続き考えてまいりたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） それでは、全員から質疑をいただきました。何か質疑もれ、特に必要のある方いらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

今回は、商業観光の今後に力点を置いて総括等も含めて、また委員各位からも中身の具体や、中身の持ったものを出していただきたいたいといった要望もございました。そういったことを踏まえた形で進めてまいりたいと考えます。

では、次回の日程については、委員会にて協議し、その後担当課と調整するというところでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 経済振興課の皆様ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 0時02分

再開 午後 0時02分

○委員長（広地紀彰君） それでは休憩を閉じて委員会を再開いたします。

本日の所管事務調査は商業観光計画の現状の課題についてということで、進捗状況を中心に皆様と協議を行ってまいりました。先般、通知があったとおり、来月14日にはウポポイ開設を機運として駅北と大町商店街を回遊させる取組と、関係者の生の声を聞く機会として、白老商業振興会との懇談会が分科会として予定されております。このようなことから、懇談会以降の日程で今後の商業観光についてという所管事務調査を進めてまいりたいと思います。それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 具体的なお話になりますが、5月14日が分科会と、そして15日には特別委員会が予定されておりますので、5月18日の週ないし、25日の最終週の中で調整させていただきたいと思います。何か特段のご予定のおありの方は早めに事務局に申し出ていただくとご配慮させていただきたいと思います。次回はそのような形の調整でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、1項目めの内容については全部終了いたしました。

その他ということで、新型コロナウイルスの経済対策について、及川委員の発言をお願いいたします。

及川保委員。

○委員（及川 保君） 正副委員長に緊急の経済対策についてお願いしたいと思います。というのは、ご存知のようにこの新型コロナウイルス感染症の影響が非常に厳しい状況になっております。以前からも町内には経済商工観光を含めて非常に厳しい状況になっているわけでありまして。そこで私たち会派みらいが、先般3月31日に、町側に対して緊急の経済対策を要請しました。今日、白老町商工会から議長宛に要望書が出ております。これは皆さんもご存知だと思います。私たちが訴えた対策というのは、ゼロ回答でございました。やはり会派だけではこれは厳しいという思いが非常に強くございます。そこで、以前もあったのですが、通年議会になりまして常任委員会が独自に議会を通さず、町の担当者と呼んで緊急の常任委員会を開いて、議論できるというものです。それは以前に1回だけあるのです。大昭和製紙時代に煤煙のことであったか、正確には覚えていないのですが、そこで常任委員会を開いて、その問題をしっかりと受け止めて対策を講じたというものです。このような経緯が1回だけあるのです。今回も非常にこの新型コロナウイルス感染症というのは長期間に渡るということで、このような思いがあった中で、今日商工会からも要望書が出されております。そのような状況の中で、独自で私は要望しようと思ったのですが、ここはやはりきちんと所管として議長に正副委員長から具申していただいて、緊急に所管を取らせてくださいということで、

所管を取るとなると本会議を開催しなければいけないのです。そこの辺りの状況も踏まえて、ぜひこの対応策打っていただきたいというのが私のお願いでございます。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 今、及川代表からお話がありましたが、飲食店、宿泊施設等は、もう5月いっぱい持たないという声はかなり上がっています。その中であって、町にも会派みらいとして要望しましたが、先ほどお話あったとおりのゼロ回答でした。今回の商工会が挙げているものとほとんど同様のものが入っているのですが、やはり1番確認したいことは何かというのは、具体的に町の事業者が今どのような課題や困りごとがあるかというところが、町で把握できていないというところがあるのです。例えばどういうことかという、Aという飲食店では、もうあと5月までも持たないということで、固定資産税や上下水道料といったものを免除してもらいたいという声があったり、あるBというところは、また違う困りごとがあったりするわけです。その実態把握を町ができていないということなのです。我々議員としても今の地域の状態、状況、個々で抱えている事業者がどのような形で窮地に陥っているのかというところを把握するための数字が必要だと思うのです。地震があれば、町の職員は各自分たちの所管で、かに御殿に行って売上げがどれだけ落ちましたか、建物はどれだけ損害がありましたかなどというヒアリングをするわけです。それが町で各課一斉に動いて、危機管理室でそれを集約するわけです。その具体的な統計や数字がなかなか見えていないので、効果的な施策も出ていないという状況にあるのです。ですから、この委員会の中でも今まちがどのような状況になっているか、その部分は町も商工会や観光協会に任せているということではなく、町として情報を持たなければならない部分があります。事業者等は、商工会、観光協会の会員ではない方々もいらっしゃいます。そういう意味で統計、データベースがあった中で効果的な施策を打っていかなければならないのかと強く感じております。

○委員長（広地紀彰君） ただいま2名の委員より、新型コロナウイルス感染症対策、それが長期化することに対する影響の大きさ、また商工会等から出されている要望書を鑑みてはどうかという提案がありました。さらには実態を把握の必要性について述べられました。これに関わって、ほかの委員の皆様から何かご意見ございますか。趣旨を総合すると、今の新型コロナウイルス感染症対策には緊急の取組が必要ではないかという課題意識。そして所管ということとを及川委員からは長年の経験の中で取組まれてきた実態も示していただきました。実際に今、委員会規則第17条に所管事務等の調査ということで、委員会は所管する事務について調査をしようとするときは、その事項、目的、方法及び期間等をあらかじめ議長に通知しなければならないとあります。逆にいえば議長に通知をすれば所管事務調査を行うことができると定められています。ですので、今の委員からのご趣旨を踏まえると、緊急の所管事務調査の中で実態把握と、それに対する委員会の意見ということで町に対してきちんと対策を訴えていくといった流れが適当ではないかと捉えます。そのような形で、議長に諮った上で所管事務調査として新型コロナウイルス感染症の実態と対策について、文言は正副委員長で整理をさせていただきたいと思います。そのような趣旨で議長に対し、常任委員会として緊急の所管事務調査を申し出るといったようなことでいかがかと考えますが、ほかの委員の皆様はいかがですか。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 今、産業厚生常任委員会では、商業観光計画の進捗状況と今後についてという協議がありました。これに成功するかしないかというのは、やはりこの新型コロナウイルス感染症問題をきちんと把握しなければ駄目だと思いますので、今委員長のおっしゃったような形でさせていただくのが妥当だと思います。私は特にこの問題について、商工会から出されたこの提案は、今私たちが所管している事務調査の中から逸脱しているものではないと思いますので、そこは緊急に議長に答申して、委員会として所管をとってもよろしいのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） ありがとうございます。ほかの委員よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ご異議なしと認めます。

それでは、緊急の所管事務調査を新型コロナウイルス感染症の影響と対策についてといったような趣旨で、正副委員長より議長に申し出をして、委員会規則等々をもう一度、再度確認した上で取組みたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのような取扱いをさせていただきます。なお、細部の取扱いや日程等々については、正副委員長に委任をいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのように取扱いをさせていただきます。この件についてはよろしいですね。では終了とさせていただきます。その他、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） 以上をもちまして、産業厚生常任委員会を終了いたします。

（午後 0時14分）